

北九州革新懇ニュース

平和・民主・革新の日本をめざす北九州の会
〒803-0817 北九州市小倉北区田町 13-21 田町ビル 3 F
TEL.093-592-5000 Fax.093-571-4346
E-mail k-kakushinkon@ace.ocn.ne.jp

全国革新懇「三つの共同目標」

1. 日本の経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
2. 日本国憲法を生かし、自由と人権・民主主義が発展する日本をめざします。
3. 日米安保条約をなくし、非核・非同盟・中立の平和な日本をめざします。

北九州革新懇 インタビュー

プロフィール 棚次奎介（たなつぐけいすけ）
さよなら原発北九州連絡会代表。玄海訴訟
北九州地域原告団共同代表。
1943年生まれ。九州工業大学卒業後、
九州大学大学院で計算数学を専攻。北九州
市立大学名誉教授。



八幡西革新懇の嶋です。今日は、忙しいなかご協力いただきまして本当にありがとうございます。
早速ですが、幾つか質問をさせていただきます。

■ 原発に反対の運動をされていますが、その動機は何だったのでしょうか。

棚次 やはり、3.11 事故がきっかけですね。一つは、工学部出身でしたから機械の生産性も安全性も技術の発展でよくなるものと考えていましたが、原発は全く当てはまらないと考えるようになりました。また、原子力の研究開発を原子力基本法の「平和・安全・民主・自主・公開」の原則は本当に素晴らしいと思っていましたが、これも後で考えると、日本人の核に対する強い危惧を払拭するために原発の事業推進を原子力の研究・開発と結びつけ、夢を持たせる意図が隠されていました。しかし、実際の原発は、3.11 以前にもさまざまな事故を起こし、報告義務があるにも関わらずそれが永い間隠されたりしていました。原発のそばで仕事をする労働者の被爆も自己責任で放置されていました。

調べるほどに原発は本質的に危険な機械設備であることが分かってきました。

もう一つは 3.11 事故が社会的に取り返しのつかない事故であったことです。避難している人の多くは住み慣れたふるさとの家に暮らしたいが帰れず、わずかの賠償金を糧に悲痛な思いで暮らしています。ふるさとの復旧を夢見て、放射能に怯えながらも除染に取り組んでいる人もいますが、大変な苦勞を強いられています。汚染水も抜本的に封じ込めることができず、いわば「垂れ流し」の状態が続いています。4号機建屋に保管の核燃料棒は昨年末に取り出しが終了しましたが、1、2、3号機建屋内の核燃料棒はどのような状態になっているのかわからないうえに、放射能が強すぎて人が近づけません。4号機以上に難しい作業が必要です。3.11 事故で放出された放射性物質は、時間と空間を

超えて広がりました。本当に取り返しがつきません。

■ 原発が本質的に危険だというのはどういうことですか。もう少し説明してください。

棚次 これも二つの点から説明したいと思います。

最近小倉駅前の金曜行動で原発賛成の市民から、「自動車事故で何人の人が死んでいると思いますか。原発が危険だからやめてしまえというなら自動車の方がもっと危ないでしょう。だけど自動車はやめられないでしょう。技術は危険性と隣合わせで発展してきたのだから原発もそうですよ。」と言われました。原発の必要性和危険性について頑なな誤解があると思いました。

原発はウランの各分裂で巨大なエネルギーを取り出します。核分裂は連鎖反応で加速的に進みます。核分裂が抑えられなくなると安倍政権と同じく「暴走」状態になり、手がつけられなくなります。「暴走」寸前の状態を保つことが原発の運転ですが、それがたいへん難しいのです。原発と安倍政権、どちらもたいへん危ないですね。

原発は巨大な機械システムです。配管のバルブの開閉を間違えて、タンクから汚染水が溢れる事故がありましたが、計器の見間違いやちょっとした操作ミスで炉内の状態をおかしくすることがあります。地震などの衝撃によってたくさんの細管が断裂し、それでメルトダウンが始まることさえあります。どれほど安全対策を行っていても、思いもよらぬシステム障害を避けることはできません。複雑な機械ほどそうです。核分裂と核崩壊によって自然界には存在しない様々な放射性物質が生み出され、中には数万年も放射線を出し続けるものもあります。それらを保管し管理する場所も見当たらないし、数万年も安全に管理出来るかどうかわかっていません。以上が原発固有の物理的な危険性です。地震と火山の多い日本では、原発の危険性は倍加するでしょう。

もう一つは社会的な危険性です。日本の場合は技術も含めてアメリカから原発を導入したのですが、ただでさえ経営リスクの多い原発事業を民間の電力会社が簡単に引き受けるわけがありません。政府の肝いりで電源3法などでの制度整備と多額の税金をつぎ込み一定の経常利益

を保証したのです。しかし、ひとたび事故を起こすと、事故収束のための経費と賠償金だけで会社が倒産するほどの負債を抱え込みます。国民も納得しません。

そこに「原発は安全だから絶対に事故は起こらない」という安全神話が生まれます。「原子力損害の賠償に関する法律」には、損害賠償は原子力事業者のみが行う旨書かれています。その損害が「異常に巨大な天災地変又は社会的動乱によって生じたものであるときは、この限りでない」とあります。また、事故保険に入るとを義務付けながら同時に、賠償金はその保険金の限度を超えた場合は、政府がその額を補償するともあります。電力会社の負担を極力軽減するしくみです。

これでは本来電力会社が持つべき事故の責任を大幅に軽減することになりますね。安全対策も規制委員会の新基準をクリアすればいいだけになってしまいます。大手の融資銀行や保険会社もニコニコ顔です。

3.11 事故後の東京電力、政府の動き方がそのことを如実に物語っています。結局国民が納めた多額の税金を事故の収束と賠償金に注ぎ込むわけです。電力会社は安泰でも、国民は深刻な放射線被害と税金負担で苦しまなければなりません。そして今、「世界最高基準の規制基準に合格した原発は世界最高に安全であり、再稼働すべきだ」という新たな「安全神話」が作られています。

■ 「さよなら原発北九州連絡会」がつくられたいきさつと、これまでに取り組まれた運動についてお聞きしたいのですが。」

棚次 3.11 事故は、私が退職した1年後のことでした。北九州で最初に行った大きな集会は、事故の翌年 2012 年に三萩野公園で行った「さよなら原発！3.11 北九州集会」でした。実行委員会として取り組みましたが、集会の総括会議を行った時に、実行委員会は解散するけれども今後もお互いに情報を交換し、できたら「さよなら原発」の運動を継続できたらよいねということで、「さよなら原発！北九州連絡会」ができました。

当時東京の官邸前で毎週金曜日に行っていた金曜行動に連帯する意味で、小倉のリバーウォーク前で「しゃべりばウオーク」と命名して夕

方約1時間リレートークを行いました。第1回目7月27日(金)でした。会を重ねるうち、人通りが少ない中を風雨に打たれながらしゃべるのも大変なので、翌年の春から、人通りの多い小倉駅前に場所を変え、定例の金曜行動として訴えています。歌声の人も参加するようになり、多い時は40人以上集まることもあります。今までに130回やりました。嬉しいのは知っている人が声をかけてくれること、見知らぬ人から激励されることもあります。さよなら原発八幡西連絡会でも、「11日行動」として月1回黒崎駅前で行っています。

大学の時は学生運動をやっていましたが、原発をなくしたいとの思いで自主的に集まってくる参加型の市民運動は初めてです。いろんな立場の人がいて、運動の進め方などで意見が食い違うこともありました。「原発をなくそう」の一点だけで前へ進むよう心掛けています。今では互いの心の内もだんだんわかるようになり、自然にまとまるようになりました。楽しくすることも運動を続けるための重要な要素です。

■ **九州の川内原発が全国に先駆けて再稼働されようとしています、それをストップさせることはできるのでしょうか。**

棚次 ストップできると思います。たくさん問題を置き去りにし、見切り発車で再稼働を進めようとしているからです。規制委員会の審査には合格したのですが、規制基準自体が低すぎるといふ問題と、基準を満たしているとはいえない事項があるという問題です。簡単に言えば、過酷事故対策が不十分であること、地震・火山爆発の可能性が過小に評価され、結果として保安対策がいい加減な内容になっていること、免震重要棟とフィルター付きベントの設置に5年の猶予が与えられており、実際に川内原発は両方とも未設置であることです。

避難計画と地元同意についても多くの問題を残したままです。作成された避難計画の内容に実効性が伴っていないこと、再稼働に同意したのは原発立地の薩摩川内市のみであることなどです。鹿児島県民の6割以上が再稼働に反対または疑問を抱いているのに、地元が同意したとされてしまうのはとんでもない

ことです。少なくとも避難計画の作成を求められた9つの市町村のすべてに同意を求めるべきです。

最後に、川内原発再稼働の責任、事故が起こった場合の責任を誰がとるのかという問題です。それは最も再稼働を望み、原発運転の当事者である九州電力です。ところが、この間、その責任の全てを原子力規制委員会、政府及び関係自治体に委ね、自らをかやの外に置いていることです。かつて、瓜生社長が言った「原発が運転できないなら電気料金を更に値上げする」という傲慢なことばを、今でも忘れることができません。九州電力が民間企業であるとは言え、電力事業は公共性の高い事業です。国民・住民の声に耳を傾け真摯に応えることが事業推進の本道ではないでしょうか。

再稼働をストップできると思った一番の理由は、規制委員会が川内原発の合格判定を行った後も、川内原発再稼働に反対の国民が賛成の人の倍近くいることがわかったからです。地元薩摩川内市では賛成がやや多いということでしたが、賛成した人の中でも過半数の人が、避難しなければならぬ事故が起こると思っ不安を抱いているのです。

■ **最後に今後の取り組みを聞かせてください。**

棚次 3月2日には九州電力本店に九州各地から1,000人が集まり九州電力を追及して再稼働をストップさせる行動が予定されています。

3月8日(日)には三萩野公園で、「さよなら原発! 3.8北九州集会ーストップ川内原発再稼働!」が開かれます。たくさんの方が参加されることを期待しています。

■ **棚次先生、本日は本当にありがとうございました。お忙しいなかでのご協力、感謝申し上げます。3・11後の先生の心境の転機、そして毅然とした原発ゼロへの決意を伺うことができました。改めて「原発再稼働NO!」、その気持ちを強くさせられました。**

3・8北九州集会を成功させる為、八幡西革新懇としても是非頑張りたいと思います。

沖縄激励100万はがき運動を全国革新懇が提起 翁長知事に激励！安倍首相に抗議のハガキを！

昨年の沖縄県知事選挙で翁長雄志知事が圧勝し、総選挙では“オール沖縄”候補が全4小選挙区で自民党候補を打ち破って完勝し、辺野古新基地建設反対の沖縄県民の総意を明確に示しました。それは、沖縄戦の悲劇を体験し、戦後もいっかんして長い間押しつけられた米軍基地の重圧に苦しんできた沖縄の人びとの心からの叫びでした。ところが安倍政権は、この明確な意思がしめされたにもかかわらず、「辺野古新基地建設を推進する」と、あくまで辺野古新基地建設を強行しようとしています。そればかりか翁長知事との面会さえ拒否するという異常な態度に出ています。

まさに恥ずべき行為です。違った意見に聞く耳を持たず、県民の代表である知事にすら会おうとしない態度は、総理大臣たる資格があるのかどうか、を根底から問う問題です。

「沖縄いじめ」—こんなことを許しては、日本に民主主義があるのかが、問われます。ここには、民

意を切り捨て、憲法を破壊する安倍暴走政治が象徴的に示されています。この暴挙に抗議し、沖縄県民と連帯し、安倍政権に新基地建設計画の撤回を求めることは、日本国民の良心の発露であり、平和と民主主義を守るわたしたち自身の責務ではないでしょうか。

みなさんに心からよびかけます。沖縄と全国各地で、ただちに声をあげましょう。数万、数十万、百万の声をこだませましょう。

1、全国津々浦々で、緊急抗議行動をはじめ沖縄県民のたたかいに連帯するつどいなど多彩な連帯・支援の行動をくりひろげましょう。辺野古新基地建設に反対する現地の抗議行動を支援しましょう。支援募金に取り組みましょう。

2、安倍首相にハガキ、手紙、FAXで怒りを込めて抗議し、辺野古新基地計画の撤回を要求しましょう。翁長知事にハガキ、手紙、FAX、メール、ツイッターで、ともにたたかう気持ちを伝え、激励しましょう

激励 〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2 沖縄県庁 沖縄県知事 翁長雄志様
抗議 〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-3-1 首相官邸 内閣総理大臣 安倍晋三様

激励

辺野古新基地建設阻止はみんなの願い
政府の理不尽な圧力に負けないでがんばりましょう

保守・革新を超えた“オール沖縄”の代表として「あらゆる手法を尽くし辺野古に新基地はつくらせない」と尽力する翁長知事を応援します。

沖縄県民の総意を押しつぶそうとする政府の理不尽な圧力に負けないでください。沖縄県民とともに、新基地建設を絶対に許さず、普天間基地の閉鎖・撤去のため私たちもがんばります。

私のひとこと

2015年月日

住所

氏名

抗議

辺野古新基地建設計画を撤回せよ

昨年の沖縄県知事選挙、衆議院選挙で、名護市辺野古の新基地建設は断固反対という沖縄県民の明確な意思が示されました。この民意を無視し、新基地建設を強行する政府の姿勢は、長年米軍基地に苦しめられてきた県民の心を踏みにじり、民主主義を否定する暴挙であり、強く抗議します。政府は直ちに辺野古新基地建設に向けた作業を中止し、計画を撤回すること、普天間基地は無条件で閉鎖・返還することを求め、請願します。

私のひとこと

2015年月日

住所

氏名